



睡眠障害に関する治療の パイオニアとして 患者本位の体制を整備 医療法人 ますたに呼吸器クリニック (大阪市都島区)

ますたに・ひとまる ● 1961年、大阪府生まれ。86年、和歌山県立医科大学医学部卒業。大阪大学医学部附属病院第3内科、大阪府立成人病センター呼吸器科、NTT西日本大阪病院第2内科医長などを経て、2001年、医療法人ますたに呼吸器クリニックを開設。患者のライフスタイルに合わせた睡眠時無呼吸症候群(SAS)の検査ならびに治療を実施しており、年間800人もの患者が同院を訪れる。日本睡眠学会認定医、日本内科学会認定医、日本呼吸器学会認定専門医

仁丸 谷 舛

CLINIC MASTER
クリニック・マスター

2001年、大阪府初の睡眠時無呼吸症候群(SAS)専門クリニックとして誕生した「ますたに呼吸器クリニック」。最寄り駅から徒歩10分とアクセスが良く、SASの診断で行われる睡眠ポリグラフ(PSG)検査が可能な数少ない診療所とあって、月間1000

人近くの睡眠障害患者が訪れる。現在こそSASの認知度は高いが、「開業当初は病氣自体があまり知られておらず、診療体制も十分に整っていませんでした」と、舛谷仁丸院長は振り返る。呼吸器専門の勤務医として肺がん、呼吸不全などの診療に携わってきた舛

谷院長が、SASの重篤性を強く認識するようになったのは、大阪市内の病院で呼吸器疾患全般を担当するようになってから。以来、自己流で治療に取り組みながら、診療体制の整備に尽力してきた。だが大病院になればなるほど、患者本位の診療体制が構築しづらいことに気づいたという。

「PSG検査は、睡眠中の患者の脳波や呼吸数、血中酸素、筋電図などのデータを一晩中測定するものです。しかし病院側には、ベッドの確保が困難なうえ、夜間スタッフの配置という労務上や採算上の問題がありました」

こうしたなか、舛谷院長は九州でSAS専門の診療所がオープンすることを聞きつけ内覧会に出席。オフィスビルの一角にあり、サラリーマンのニーズを見込んだ経営スタイルを見て「これならできるかもしれない」と思い、大阪市内での開業に踏み切った。

同院には、患者に負担をかけることなくPSGを実施する体制が整っている。ビジネスマンやOLが会社を休まずに検査を受けられるようにと、夕方6時30分に来院してからそのまま入院し、翌朝7時に退院できる検査システムを構築。安眠できるようにすべく、6つの病室はすべて個室にした。患者は夕食やシャワーを済ませた後、病室に入り各種センサーを体に装着。就寝後は、睡眠状態を専門検査技師が夜を



CPAP治療に使用するマスク。同院では、熟練した技師が患者一人ひとりに合わせて圧を手動調整するマニュアルタイトレーションを採用。全国でも施行できる施設はまだ少なく、遠方より患者が訪れる

同院では、「メタボ脱出大作戦！」と名付けた生活習慣病教室を実施し、看護師が主体となって患者の減量指導も行っている。SASの正しい認知・普及へ向けて舛谷院長の意欲は尽きない。

徹して別室モニターで観察する。技師は6人おり、全員が常勤だ。「精度の高いデータを集めるためには、夜間モニターを実施してくれる熟練技師が不可欠です。当院では、夜間検査を前提として技師を雇用していますので、労務上の問題もありません」と舛谷院長は語る。

検査だけでなく、SAS治療にも患者本位を貫いている。現在、有効な在宅睡眠治療として、CPAP(持続陽圧呼吸療法)機器を用いた治療法が用いられているが、最初に専門技師がマニュアルタイトレーション(圧調整)を行わなければ入眠を妨げるトラブルが発生し、患者の自己判断で治療をやめてしまうこともあるという。こうした問題を未然に防ぐべく、同院では患者に機器を使用する前に検査と同じく夜間入院してもらい、CPAPを装着して就寝。呼吸状態が正常化するまで技師が手動で圧を調節し、翌朝、最適圧に設定した機器を渡す。

「CPAPが続けられない原因には、

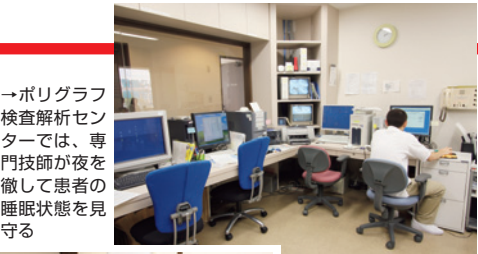
圧調整やマスクのフィッティングなどがうまくいっていないことも多い。患者さんによっては劇的な効果を発揮する治療法です」(舛谷院長)

なお、マウスピースや外科手術が必要な場合は、歯科や連携病院へ紹介。単なるいびき治療の患者は耳鼻咽喉科へ紹介することで、診療所の専門性を保っている。

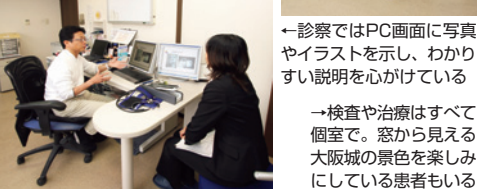
舛谷院長は、SASの治療が生活習慣病の罹リスクを減らすカギとらんでいる。「JR山陽新幹線の事故により、SASの『眠気』と『事故』の関係性がクローズアップされましたが、SASは生活習慣病・メタボリック症候群とも密接な関係にあり、放置しておくと糖尿病や高血圧、さらには心筋梗塞や脳卒中に発展する危険な病気です。この4月から特定健診・特定保健指導も開始されましたし、生活習慣病を中心とした医療機関との連携を強化し、SASのさらなる認知・普及に努めていきます」



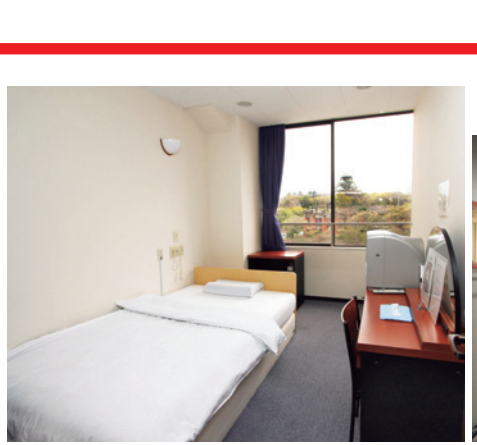
↑検査や治療の窮屈さを感じさせないよう院内には絵画がかけられ、高級ホテルのような雰囲気漂う



→ポリグラフ検査解析センターでは、専門技師が夜を徹して患者の睡眠状態を見守る



←診察ではPC画面に写真やイラストを示し、わかりやすい説明を心がけている



→検査や治療はすべて個室で。窓から見える大阪城の景色を楽しみにしている患者もいる



↓院内には男女別のシャワー室が完備



↑プライバシーに配慮した待合室。大阪城が望める大きな窓は患者から好評だ



→2005年、大阪府内の診療所で初めて日本睡眠学会認定医療機関となった。同院の近辺を京阪線、地下鉄谷町線、JR東線が交差し、アクセスも良好

クリニック 拝見
患者を快眠へ誘う
ゆとりある空間づくり